お家芸のロボ 迫る海外勢

今どきの投資テーマ ② 人手不足

世界に先駆けて人口減少や高齢化に直面する日本。日本企業は産業用ロボットや工場・倉庫の自動化などを通じて、構造問題化する「人手不足」解決の先駆者となってきた。ただ海外勢も急速に力を高めており、グローバル競争が激しくなっている。

工場の生産ラインを次から次へと流れるスマートフォン（スマホ）部品。不良品や異常がないかを「機械の目」が静かに見つめる。高精度のカメラが撮影した映像を画像処理システムが自動で分析し、異常を検知する仕組みだ。

中国など新興国の人件費が上昇し、もはや人海戦術によるチェックは難しい。キーエンスは人間の目の代わりを務めるこうしたシステムで業績を伸ばしてきた。

公募投資信託「ロボット・テクノロジー関連株ファンド」の運用を担当する仏アクサ・インベストメント・マネージャーズのファンド・マネージャー、トム・ライリー氏はキーエンスの「機械の目」について「自動車や物流、電機、ロボットなど重要な市場で存在感が高まっている」と高く評価する。

この分野でキーエンスのライバルとなっているのが、米コグネックスだ。厳格な品質管理で有名なアップル製品の検査などを手掛け、ＱＵＩＣＫ・ファクトセットによると、売上高の2割超をアップルが占める。ｉＰｈｏｎｅの出荷増と歩調をあわせる形で業績を拡大させ、株価は過去3年で3倍、同10年で約11倍となった。

日本企業は産業用ロボットやロボットに欠かせない中核部品に強みがある。「ジャパン・ロボティクス株式ファンド」を運用する日興アセットマネジメントの星野正智シニアアナリストは「競争力が高い上、必要不可欠な部品を製造している」と日本企業の強みを語る。同ファンドが保有するのはキーエンスのほか、ソニーやＳＭＣなど。ＳＭＣは「少ない投資金額で自動化できるため、アジアなど新興国での需要が大きい」（星野氏）。

一方、海外ではロボットを活用する領域が急速に広がっている。

ロボット・テクノロジー関連株ファンドが7月に投資を始めたのが、英国でオンラインのスーパーマーケットを展開するオカド・グループ。肉や野菜を朝5時30分から夜11時30分まで1時間単位で自宅に届ける。強みはロボットを使った自動倉庫。受注した商品をロボットが箱詰めし、出荷を自動化した。5月には米国最大の食品スーパー、クローガーに同社の自動化システムを提供することを発表し、株価が急騰した。

海外では医師が手術にロボットを使う例が急増している。医師が操作し、ヒトでは不可能な複雑で精緻な手術が可能だ。医療支援ロボ「ダヴィンチ」で圧倒的なシェアを誇る米インテュイティブサージカルは時価総額が６３０億ドル（約7兆円）とファナック（約4兆３００億円）を上回る。

日本勢が強い産業用ロボットで存在感を高めているのが、デンマークのユニバーサル・ロボットだ。協働ロボットと呼ばれるヒトとの共同作業を前提にした小型ロボで、ヒトがけがをしないような安全対策を施す。

同社を買収したのが、アドバンテストと半導体検査装置で世界シェアを二分する米テラダイン。協働ロボットは安価なだけでなく、「プログラムが簡単で中小企業でも導入しやすい」（ライリー氏）。

大和投信によると、ロボット技術の高度化で、２０２５年には最大５１０兆円の経済インパクトが期待できるという。「次の商機がここだとみると、海外勢のスピード感はすごい」（ゴールドマン・サックス証券の高山大樹マネージング・ディレクター）。巨大市場を巡って競争が激しくなっている。（太田明広）

「ロボット」関連ファンドが投資する主な銘柄

		ファンド組み入れ順位（７月末）	過去３年株価上昇率（８月末）
ロボット・テクノロジー関連株ファンド（大和投資信託）			
ＰＴＣ（米）	企業の製品開発や生産効率を高めるソフト提供	4位	3倍
シーメンス（独）	工場向けシステムを構築	5	27%
インテュイティブサージカル（米）	手術支援ロボット「ダヴィンチ」で高シェア。患者負担軽減	6	3倍
テラダイン（米）	協働型ロボットメーカーを傘下に持つ	10	2倍
ジャパン・ロボティクス株式ファンド（日興アセットマネジメント）			
ソニー	高精度のＣＭＯＳイメージセンサーに強み	1	2倍
キーエンス	ＦＡ用センサー大手	5	2倍
ＳＭＣ	ロボットや生産ラインなどで使われる空気圧制御機器の最大手	8	25%

許諾番号30064984 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。
掲載日 2018年09月12日 日本経済新聞朝刊 017ページ
(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。